



好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴丸言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edupref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

3月の行事予定

3月	
1月	卒業式予行、同窓会入会式中掃除
2火	第61回卒業式
3水	
4木	
5金	
6土	
7日	
8月	全校朝会 学校安全の日 入学学力検査場設営 国立大学中期日程試験(3/8~)
9火	入学学力検査(1日目)
10水	入学学力検査(2日目)
11木	
12金	学年会 国立大学後期日程試験(3/12~)
13土	悠学講座⑩
14日	
15月	学年朝会 第11回職員会議
16火	
17水	合格者発表
18木	合格者集合
19金	第12回職員会議
20土	
21日	春分の日
22日	振替休日
23火	
24水	職員研修(進路)
25木	終業式 大掃除
26金	第13回職員会議
27土	
28日	
29月	離任式 合格体験を聞く会
30火	
31水	

自分自身の責任で人生は生きるしかない

校長 小倉寛恒

国際的に環境問題が話題になるとき、先進国が発展途上国から二酸化炭素を「買取る」施策が議論されることは承知のことと思う。

科学的に地球規模で考えれば、そこに売り手と買い手がいて市場が成立することは、特に不思議なことではないのかも知れないが、どうもそこには先進国一種の傲慢さが見える気がしてならない。

そしてこのことは、近年、人間の生き方においても、金銭や物質が人々を傲慢にし、充実した生き方を奪ってしまったことと無縁でないように思えるのである。

最近の教育は、家庭教育でも学校教育でも子ども達を挫折させないようにと、心が折れないようにと、先回りして大人達が手立をしてし、何とか寧ろない日々を送らせようとしている。

一方、本来の親心とは、端的に言えば「可愛い子には旅をさせよ。」であり、西洋にも同様な箴言として「Spare the rod and spoil the child」があるのとおり、可愛い子供には世の荒波に揉まれて、世の中のつらさや苦しさを経験させた方がよいという考え方のことである。

しかしながら、我が国では、経済的に一定の豊かさ確保するようになった現在、仮に親として自分が背負った苦労があったにせよ、子供に負担を強いることなく、むしろ苦難を回避するために快適さを「買い取って」子供に提供しようとする傾向すらある。

簡単な譬えであるが、登山は登坂途中がきつからやり甲斐があるのであり、楽しんで登れる山など魅力もないはずである。

本当に楽しんで格好良く人生を送ることと、逆に様々に苦労しながら一定の方向を目指して進むことと、どちらが真の幸せかと言えば、当然のことながら大半の人間が後者こそが「充実した生き方である。」というであろう。普通の順序でいけば、子は親より後に残って生きていくものであり、必然的に一人で生きていかなければならないものである。



三年生二次試験始まる

2月25日を幕開きに国立大学二次入学試験が始まった。

桜の花が咲き始める頃、3年生の笑顔が見られることを祈って最後まで応援したい。

日頃、全校朝会などで、「早く稚氣を捨て去って自らを待たせ、鞭撻する志を失わぬように。」と話をしているが、早く稚氣を捨て去る為には、人に負けたり、恥をかいたり、格好悪かったりすることに對して、自分で対処できるようにすることが大切であり、その解決のために、親や周囲の大人達に依存するようではいつまで経っても大人への脱皮は出来ないことになる。

長い人生の中では思い通りにならないことが沢山あるが、思い通りにならないのが世の常であり、人生であるのかも知れない。

しかし、我が国においては、グローバル資本主義の風儀であるかどうか知らないが、家庭でも、学校でも、企業でも、大人が若者に対して「勝つ」ことだけを教えているような気がしてならない。実際の現実生活ではどうかといえば、大半は「負ける」ことが多いのである。

本校の生徒諸君は、高等学校に至るまではある程度思い通りに来たかも知れないが、この先学力向上がはかばかしくなく、部活動において大会で勝てないなど、数々の『負け』を体験する機会が多くなってくると思う。しかし、失敗しても負けに強い人間に成長することが大切なのである。

己の為すべき方向性と方法を持たぬ者は、才学がいかに優れ、気概が充実していたとしても、ともに語るに足らない人材である。生徒諸君には、自分の心に潜む懦弱な心を捨て、どのような疾風を受けても、またいかなる屈辱にも耐え得るような剛烈な気力と気根を持って、早く自らの「充実感のある生き方」を求めて欲しいと願っている。

校内弁論大会

2月15日(月)の7限目に、第15回校内弁論大会が行われた。クラス審査、学年審査を通過した、1・2年生3名ずつ合計6名の弁士が壇上にあがった。

11Rの前田晋平くんは「タイム イズ マネー」と題して日常生活の中に潜んでいる無駄な時間を見直すきっかけを提案し、23Rの牧元竜貴くんは「鶴丸からの波動 再生超大国日本」を通して日本社会の現状を打破するために何かあるべきという一つの形を私たちに示してくれた。24Rの古川渉くんは「エスカレーター」というタイトルで、科学が進歩した先に人類の幸福が本当にあるのかという問題を提起した。

優秀賞には12Rの吉嶺由紀子さんの「私たちがつなぐ命」と18Rの野添研太さんの「戴きます」が表す感謝」が選ばれた。吉嶺さんは友人の死に直面したことを通し、遙か昔の祖先たちが何代にもわたって代を重ね、いま私たちが引き継いでいる生の尊さを穏やかな語り口で訴え、野添くんは食糧自給率の低さとは裏腹に飽食・食べ残し・日常生活の豊かさを様々な統計から導き、日常生活の豊かさを直視していくべきであることを、パフォーマンスも交えながら語り上げた。

そして、今年度の最優秀賞には27Rの松元綾子さんの「ONE」が選ばれた。オンリーワンとナンバーワンの対比から、オンリーワンはあるがまま、そのままがいいという意味で用いられることが多いが、それは努力せずに現状のままでよいという意味ではない。オンリーワンでありかつナンバーワンを目指す努力を積み上げることが大切なのではないかということに明快な論理で展開した完成度の高い弁論であった。

自らが考えたことを大勢の前で話すことは勇気のいることでもあり時に覚悟も必要である。しかしそこから紡ぎ出された言葉は私たち聴衆に何もかも代えがたい様々な発見や大きな感動をもたらしてくれるものである。来年の弁士は君だ!

二年生進路講演会

2月22日(月)の7限目、LHRの時間を活用して2学年進路講演会が開催された。今回は河合塾より秦利勝先生と原庸雄先生の両名をお招きし、「第3学年を目前にして、いま何をすべきか」という共通のテーマのもと、部活動生対象と部活動生以外対象の2つの会場を設けて実施された。

部活動生対象の会場では、秦先生が「部活動でどうやったら強くなるか、うまくなるか考えながらやることと大学への勉強も同じである」とことや「受験は団体戦とよく言われるが、互いに教え合い助け合うことのできるまとまりのある集団は成績も向上することなど、普段の部活動を通して実感していることを3年生になつてからどう活かすことができるのかわかりやすくお話して下さった。

部活動生以外を対象にした会場では、原先生が、集団力に長け気分転換が早い部活動生に気後れしないために、「宿題のみをやっている勉強や時間をだらだらと浪費している生活から早く抜け出し、部活動生よりも早めに考え、行動する」こと、そのためには「2年生のうちから自分が受験したい大学・学部・学科を決めておくべきである」となどを示して下さいました。

いずれの講演でも「第一志望はできるだけ早く決めておく(どんなに遅くとも3年生の1学期までには)」「ことや「この春休みを受験勉強の第一歩としてスタートを切る」ことなどは共通して話題にあがったことであった。

講演を聞いた生徒たちからは、「今までの自分の生活を振り返るよききっかけとなった」という意見や、「進路に対してもっと真剣に考えなければならぬ」と感じた、「普段の授業がやはり大切なのだわかった」、「大学入試といえども基礎基本の定着が肝心であることをあらためて実感した」などの感想が聞かれた。

春からは3年生。次はいよいよみなさんの番である。一年後に大輪の花を咲かせることができるように一日一日を大切に過ごしてほしい。みなさんの今後に期待しています。